

仏足石

歴史的な仏であり仏教の開祖である釈迦牟尼の直接的な描写は、紀元1世紀頃までタブー視されていた。彼の肖像はあまりに神聖すぎて芸術で表現することはできないと考えられていた。代わりとして、彼の存在は仏足石という彼の足跡がついた石板の形で伝えられることがよくあった。仏足石は仏の姿を表現した最古の方法で、アジア各地で見られる。

高山寺の仏足石は江戸時代(1603~1867年)に彫られたものである。その足跡にはさまざまな仏教のシンボルが刻まれている。これには、幸運の双魚紋、力の金剛杵、歴史的な仏とその教え、悟りへの道を表す千輻輪宝が含まれる。